

## 目次

—表紙絵・若松光一郎 シリーズ—

提 言 .....地域文化功労者 川又恒一 ..... 6

|     |        |                 |    |
|-----|--------|-----------------|----|
| 特 集 | 昭和61年度 | 1. 福島県教育委員会重点施策 | 8  |
|     |        | 2. 学校教育指導の重点    | 13 |

### 昭和60年度県公立学校教職員研究論文特選入賞者論文紹介(2)

|          |                    |    |
|----------|--------------------|----|
|          | 会津若松市立行仁小学校教諭 目黒豊光 | 40 |
|          | 喜多方市立第二小学校教諭 目黒美智子 | 46 |
| 教育センターから | 昭和61年度県教育センター研修計画  | 52 |
| 図書館だより   | 県立図書館の事業活動         | 54 |
| 美術館だより   | 昭和61年度県立美術館主要行事予定  | 55 |
| 告知板      | 新年度版「教育福島」の紹介・ほか   | 56 |
| ふるさとの文化財 | 久川城跡・伊南村           | 57 |
| 博物館だより   | 新装すすむ県立博物館         | 58 |
| 世界の教育は、今 | ユーゴスラビア・オランダ       | 59 |



表紙絵について

#### 「大地の歌」

若松光一郎 作

昨年の四月から、県立美術館の収蔵品を中心に若松氏の作品を紹介してきた。一九六六年の「北国の記念碑」から八三年の「ポリフォニックな情景」まで、約二〇年間の作品である。

着彩した和紙をキャンパスに貼り込み、その上にカゼインカラーや油絵具・墨などで形象を加えるという作風は一貫するが、画面感情の中心となる色彩には黒と黄の二つの主調が窺える。黒は、赤や青を星空のようにちりばめて深々とした空間をたたえ、黄は、明るい中間色の共鳴を得て無垢な至福の世界を現前させる。

この主調は今も基本的には変わらないが、最終回を飾る「大地の歌」には、それらが更に微妙な融合と調和を遂げていることを見逃せない。恐らくそれは、いわきに生まれ、いわきに生きる若松氏の「大地の歌」と呼び得るのではないだろうか。

(キャンパス・和紙・カゼインカラー・油彩・墨、二〇〇・〇×一七・七・〇cm、一九八五年作、半世紀の歩み―若松光一郎展出品、作者蔵)